

【入善町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

将来の予測が難しい社会において、児童生徒が情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくことが求められています。そのためには、児童生徒の情報活用能力の育成が重要であり、1人1台端末をはじめとするICT環境を積極的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

入善町では、令和2年度にGIGAスクール構想の実現に向け、1,612台の端末を導入し、町内全ての児童生徒への端末貸与とネットワーク環境の整備に取り組んできた。

また、各学校の情報教育担当者が組織する「入善町学校情報研究会」が中心となってICT活用のための教員研修会の充実を図るとともに、大学教授や関連企業等の講師を招聘してICTを活用した研修会を実施してきた。定期的に研修を重ねることで、教員の関心が高まり、児童生徒への指導力の向上が見られるようになってきた。

さらに、端末やネットワークの不具合に即時対応できるように、各学校から委託事業者と直接連絡（サポートメール）ができる「GIGAスクール運営支援センター」を設置したほか、各学校への学校ICT支援員の巡回指導等を実施している。

学校内のみならず、端末の持ち帰りによる自宅での学習も推進しており、いかなる状況においても、全ての児童生徒の学びをとめず、学びの保障をするため、感染症等による学級・学年閉鎖の際にはリモートによる授業を実施した。自宅にネットワークが整備されていない児童生徒については、モバイルルータの貸出しを行った。

一方で、学校や教員によるタブレット端末等の活用頻度には差があるため、教員の意識やICT活用指導力の更なる向上が求められる。また、タブレット端末の性能による容量不足やネットワークトラブルも見受けられる。

3. 1人1台端末の利活用方策

「個別最適な学び」の実現には、一人一人の児童生徒に合わせた「指導の個別化」を進めるとともに、一人一人の児童生徒の興味・関心や意欲に応じた学習活動の機会を提供する「学習の個性化」を目指していくことが重要である。そこで、1人1台端末を始めとしたICTの活用により、学習履歴や生徒指導上のデータ等を利活用することで、個々の家庭状況や学校教育になじめない児童生徒に対する学びの機会の保障等、教育の

機会均等を確保する。

1人1台端末の利活用の推進に当たっては、子どもたち一人一人が情報を正しく理解し適切に判断し、行動できる力をもつことが必要である。また、学校だけではなく家庭での使い方も非常に重要であるため、情報モラルについて周知啓発をする。

1人1台端末の利活用方策を推進していくためにも端末を更新することにより、適切な児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。